

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200378
法人名	有限会社 グッドライフ
事業所名	グループホーム てんとうむし
所在地	霧島市 国分 上井 903-2 0995-47-4672 (電話)
自己評価作成日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設者の住まいを改装したホームが基本でありホームの中も家庭的な雰囲気である。又、のどかな田園風景が広がり近所には地域の運動会が行われる芝生の公園があり毎日近所の老人クラブの方々がゲートボール・グランドゴルフ等行っておられる姿や声が聞こえている。近所の保育園の送迎車への乗降場所にもなっており小さな子供の声が聞こえホームの中からもその姿が見えている。普段から地域の方との交流もあり野菜をもらったり、老人クラブの会合に出席して説明をしたりしている。霧島市独自のケアライフ・サポートワーカーとしてまちかど介護相談所を置き地域に貢献できるホームである。ホーム内の行事に地域の方も来ていただけるように計画したり、他のホームの行事に呼んでもらったりしてホーム内だけに閉じこもらないように心がけており、些細なことでも利用者が喜んで下さるよう頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○設置者の住居を改装した建物で、周囲に田んぼ、畑、公園、住宅があり、地域にとけこんだ施設は、まさに「我が家」的な風合いである。施設内も家庭的な雰囲気を大切にしている。

○地域との交流が盛んで、行事の参加はもとより、隣接する公園を利用するグランドゴルフを行う方や保育園児等、地域の方々と日常的にふれあっている。時には近隣の方から野菜の差し入れをいただいたり、事業所はまちかど介護相談所を置き、地域に貢献している。地域、利用者、利用者の家族、スタッフの調和がうまくはかられ、運営サービスに反映されている。

○穏やかに安心して暮らせる環境作りに力を入れ、利用者本位のサービスに努めるといふ管理者の意向が職員の間にも十分浸透しており、チームワークの良いケアの実践が図られている。また、施設内及び外部の研修に積極的に参加して、サービスの質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの名前と法人の名前の由来がそのまま理念になっている。スタッフの採用時は理念を説明するほか採用後も他のスタッフにも時々確認している	地域社会と共にとという地域密着を理念として、利用者・家族・スタッフが協力しながら運営している。理念は玄関や事務所に掲げられており、来訪者への周知とスタッフが随時確認しあうことで日々のケアへの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり運営推進会議に地域の代表の方に出席してもらったりしている。又、5月にはホームの行事を公園で実施し地域の方も来れるように公民会長さんにもお願いしているところである。	設置者の生まれ育った地域に開設しているため、地域の特徴をよく理解し、地域とのつながりを大切にしている。夏祭りや運動会、清掃作業など地域行事に積極的に参加し、近隣の方からは日常的に農作物やタオルの差し入れがあるなど地域の一員として交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	霧島市のライフサポートワーカーの研修を修了しまちかど相談所になったり、地域の方々に対して包括支援センターとともに私のアルバムの広報活動をしたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に一回行っている。その際、行事報告や自己評価外部評価等は必ず全家族に渡しおり、会議内でも出席者に意見を聞いたりアドバイスをもとめている。	2ヶ月に1回定期的で開催され、行政・地域包括センター・家族・民生委員・公民館長等の各種代表者に参加していただき、事業所の運営状況や行事の報告をすると共に、出席者から意見や要望を出してもらい、サービスの質の向上につなげている。栄養士から献立の評価やアドバイスをいただくこともある。会議の内容は文書にして家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席していただいたり提出書類等も郵送ではなくなるべく持っていき会話の機会をもつようにしている。	各種研修会やフォーラム、会議に参加する機会に行政担当者と情報交換をしている。また、空床などの利用状況を伝えたり、できるだけ直接窓口に出向いて、ケアに関する相談や事務手続きでの助言、指導を受けるなど、密な連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの環境が開放的であり訪問者も同様な感想を言っている。日頃から玄関やその他の出入り口の施錠はせず訪問者も玄関を開けて入って来られている。	身体拘束の排除については、スタッフ全員で日常的に取り組んでおり、玄関や窓に施錠をせず、出入りの自由な解放的な環境となっている。また、言葉による拘束にも配慮したケアを心がけている。拘束の必要が発生した場合、スタッフや家族で話し合い、家族の同意を得て、最小限の期間を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば研修会や勉強会に行き勉強する機会を取るようになっている。日頃利用者に対する会話についても注意しあがりして気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があれば研修会や勉強会に出席して勉強の機会をもうけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用時には契約書や重要事項説明書をもとに説明をしている。その中にも契約の終了等の事項もあり家族の聞きたいこと確認をしたいこと等も尋ねている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。家族会ではアンケートを書いたりもらったり時には都合のつくご家族には運営推進会議に出席してもらったりしている。</p>	<p>日頃より利用者やその家族が意見や要望を自由に出せる関係づくりに心がけている。出された意見や要望は、スタッフ、時には利用者を交えた話し合いの中で検討し、サービス向上につなげている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月行っている職員会議においてスタッフからの要望や意見を聞き可能なかぎり対応している。</p>	<p>管理者は、スタッフとの関係がより良いものでないと良いケアは出来ない、との信念を持って、職員の考えは丁寧に聞き取り、改善、工夫を図っている。また、公平性を重視し、一部の意見に偏らないように配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>スタッフの勤務希望のほとんどをくんだ勤務表を作ったり能力に応じた給与、時間等働きやすい環境をつくっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修は研修日にあわせて勤務を組むなどの配慮をしている。資格取得をめざしている職員には勤務を融通して勉強しやすいように配慮している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種研修会に参加させ情報交換や人脈づくりができるようにしている。他施設の研修会に行ったり行事に参加させてもらったりしてホームにとじこもらないようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接では家族はもちろん本人と話す時間を多くもち本人の思いを聞くように心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には家族が納得されるまで何回も話を聞くようにしている。またホームで対応できること出来ないことをはっきりと示し誤解のないように努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前に面接を行い入居者の生活状況、心身の状況を把握するようにしその上での優先課題を支援するようにしている。又状況によっては病院や他の施設を紹介することもある</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>時には一緒に作業をしたり手伝ってもらったりしてお互いに協働しながら生活している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時は家族に支援をお願いしたり家族も一緒に参加をしてもらったりして家族と本人の関係が保ちながら支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のお友達や知り合いの訪問は制限していない。	友人、知人の面会は随時受け入れており、馴染みの美容室やスーパーに行く希望に対しても、職員が同行して可能な限り叶えており、関係の継続に向けて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時の席はお互いの相性を考えて決めたりしている。時には利用者同士が助け合ったり慰めあったりすることも多い		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方は時々様子を見に行ったり家族にその時の状況を報告したり報告をもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時は本人と家族の想いを十分に聞くようにしているコミュニケーションのとれない方は今までの生活歴や趣味等家族から聞きながら把握に努めている	おだやかに安心して暮らせる環境づくりを目標に、日頃のケアの中で利用者との対話や素振りから、思いや希望等の把握に努め、家族とも連携を図りながら、可能な限り利用者本位の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やサマリー等の情報や家族や本人からの聞き取り等で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活の様子や入居後の生活の様子を観察しながら本人の状態を把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議内でサービス担当者会議を開いている。家族の面会時には家族の希望や思いを確認して計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人・家族・スタッフの意見や希望を取り入れながら介護計画を作成している。また、変更の必要が生じた場合は協議して、現状に即した計画を作成し、随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録ファイルを作り日中、夜間帯に分けて日常の様子や状態の変化を記録し勤務交代時に申し送っている。記録の積み重ねで変化する状態にあわせ見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族のその時の思いを大切にしながら生活保護の方を受け入れたり外部のマッサージのサービスを受け入れたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの音楽療法を受け入れたり外部マッサージを受け入れたりしながら楽しめるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に定期的に往診に来ていただいたり必要時には受診に行ったりしている。	本人・家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医の継続が多い。定期的な往診もあり、利用者の受診経過は記録している。外来受診は基本的には家族に同行していただくが、出来ない場合は職員が同行し、その結果等は密に家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホームに看護師はいないが往診の前には必ず病院から様子伺いの連絡が入るため状態を報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の訴えや身体の状態を記録し往診時に相談し助言をもらい必要に応じて専門の医療を受診できるように支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期について説明して重度化しそうな時には前もってかかりつけ医・本人・家族と話し合い方針を決めて医療・家族・介護で支援していけるようにしている。</p>	<p>看取りに対する事業所としての対応は、利用者・家族に入所時に説明し、重要事項で確認、同意を得ている。重度化が懸念される場合は、再度利用者・家族・かかりつけ医・スタッフ等で話し合い、共通理解をもって、可能な支援に取り組む方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルをすぐに見れる場所に置いておきAEDの使用法の勉強会を開いたりしてしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練は昼と夜間を想定した訓練と行っている。通報システム等の操作は新人を対象にし全員が理解できるようにしている非常ベルの設置もしており地域の協力を得られるようにしている。</p>	<p>地域の人も参加して、年2回の避難訓練を実施している。地域の方には、緊急時を想定して、施設の間取りの見学や車いすの操作実習も行っている。非常時の備蓄として、食材・米・カセットコンロ・懐中電灯などを準備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対象者に応じた声かけをするとともに個別の身体介護を行う際には他者から見えないようにケアしている	人としての尊厳を尊重し、プライバシー保護については、日常のケアの中で言葉遣いや対応の方法等十分留意している。研修も行い、利用者にとって最も良い介護の仕方を話し合ったり、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から会話を多く持ちその人を理解できるように努めている。質問を言葉ではなくはい。いいえ。等の短い単語で返事が出来るように気をつけることもある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の拒否があるときには時間を置いたり言葉かけの方法を考えたり		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で出来る人は好きな服を自由に着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者のリクエストを聞いたり食材の準備をしている。お茶をいれてもらったりテーブルを拭いてもらったりしている。	利用者からメニューの希望を聞いたり、差し入れの旬の食材を利用したり、誕生会では管理者手作りの食事で祝ってあげたり、食事が楽しいものとなるよう工夫している。また、出来る利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭き等、職員と一緒に作業をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人のカルテ等に食事の摂取量や水分摂取量を記録し本人の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い必要に応じて歯科受診をしたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態によって時間を決めてトイレへの誘導をしたり排便パターンによってはトイレに座る時間を調整したりしてなるべくトイレで排泄できるようにしている。	排泄については、排泄チェック表でパターンを把握してトイレ誘導を行い、可能な限り自立に向けた支援に努めている。一人ひとりに目を配り、便秘の調整に取り組んだり、放尿癖のある利用者の心身の安定にも取り組み、改善がみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらったりヨーグルトを食べてもらったりするとともに腹部をマッサージしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	おおむね一日おきの入浴をしていただいているが汚染等あった時には随時入浴を実施している。拒否等あった時は時間や声かけするスタッフを変えたりしながら入ってもらっている。	基本的には隔日の入浴支援であるが、必要性や希望によっていつでも入浴できる態勢をとっている。入浴を拒まれる方には、無理強いはせず、時間をおいて声かけをしたり担当スタッフを変えたり、足浴に変更したり、個々に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に日中は食堂に居なければならないことはなく自室で横になったり自室でテレビや新聞を読んだり自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はカルテに綴じてありいつでも確認できるようになっている。特に薬が変わった時等は申し送り等にも記載し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなCDをかけたり家族をよんで一緒に誕生会を開いたりコンサート、もちつきに呼ばれたり皆でつわをむいたりして支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見のドライブ、初詣、買い物、公園、近所の神社への散歩、等希望に添えるように実施している。昨年は鹿児島市に歌謡コンサートを見にも行き喜びを見いだせるように支援している。	施設の庭に季節の花々が植えられ、お天気の良い時は、庭や施設の周辺を気軽に散策し、外気浴を楽しんでいる。希望があれば、歌謡コンサートに連れて行ったり、水族館や神社参りなど家族の協力も得て、利用者の楽しみにつながる外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額のお金を所持されている方もいらっしゃいます。特に強制してお金の所持を禁止していることはない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から電話がかかってきたら必ず本人に代わり直接お話ししていただいている。特に制限はしていない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルには季節の花を飾ったり家族からいただいたメダカを置いたりしている。温度計・湿度計で室内環境を調整したりして快適に過ごせるように配慮している。</p>	<p>玄関やリビング等には、季節の花や利用者手作りの作品が飾られ、メダカが泳ぐ水槽があり、気分を和ませてくれる。タタミ敷きのスペースもあり、利用者は好みの場所で語り、ゆったりと過ごしている。転倒防止の手すりの設置や採光・換気の調整など、快適な環境作りに努め、居心地の良い空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを置いてありそこで利用者同士が語り合ったり自室でゆっくりラジオを聞いたり横になったりして過ごしておられます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内の荷物のほとんどは自宅からの持ち込みで家具の配置等は入居の際家族が置かれている。身体の状態の変化によっては本人の同意を得て配置を検討している。</p>	<p>各自それぞれ好みの物、使い慣れた物を持ち込んでもらい、本人・家族の意向を大切にして、その人らしい居心地の良い居室づくりをしている。各居室は窓が大きくとられ明るく、異臭も全くない快適な環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>室内での転倒防止のための手すりを置き本人の出来ることが継続していけるようにしたりしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない